

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792700017		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	グループホーム さわふじ		
所在地	沖縄県中頭郡西原町呉屋73番地1		
自己評価作成日	平成23年8月13日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4792700017-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成24年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさわふじは、平成19年、西原町で初めて指定を受け、町内で唯一の地域密着型サービスです。町内を流れる「小波津川」は、昔ながらの住人の方々は殆どが周知している馴染みの川。その川沿いは、静かな場所で、近所には、八百屋や理美容室などが建ち並び、生活するのに便利な地域にホームは開設ができました。また、公共機関や病院、大手のスーパーなども車で10分～15分内の場所にあります。日常の用事は、入居者様と出かけるようにし、地域の方々と触れ合いを楽しんでいます。地域の皆様やご家族の皆様に支えられ日々の生活支援が来ています。ホーム内は、玄関を入ると、天井の高いリビングがあります。リビングは天窓があり天窓から差し日差しから天気・時間・季節を感じることが出来ます。リビングを囲む様に9個の個室が並んでいます。「広い森から落ち着ける穴蔵へ入る」というコンセプト設計です。法人の基本理念を基にケア理念を介護職員が構築、日々ケアにあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は一戸建て平屋で住宅地の中に位置し、近郊には役場などの公共機関や大型スーパー、バス停留所等があり便利な環境にある。運営推進会議の委員には行政職員や地域の役員等が参加し、事業所の運営に積極的に関わっている。会議ではスライドを使用しわかりやすい報告がなされ、開催も年間定例日が設定され、委員が出席しやすい企画となっている。また、家族会が結成され、家族自ら積極的に活動している。毎月家族へ「施設便り」を発行し、利用者や施設の近況を報告する等、きめ細かなケアに努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年11月12日

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成19年、介護職員が「自分達がしてほしい介護とは…」ということで議論しケア理念を構築した。現在は、いつでも職員の目の届くところに設置し、日頃のカンファレンス時、また、ケアに困ったときに振返るようにしている。	法人と事業所の理念を玄関へ掲示している。職員は出勤時、タイムカード機前に表示されている理念を毎回意識し、実践に繋げるようにしている。また、定例会議では理念の共通認識を確認している。新人職員にはオリエンテーションでも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に意識し、入居者様と一緒に地域に出かけている。地域の年間行事・いいあんべー共生事業・地域の作業・選挙・日々の買い物など、努めて参加、出掛けるようにしている。	自治会に加入し、職員が地域の川の清掃活動に参加したり、利用者と共に地域のミニデイサービスや綱引き、盆踊りに参加している。地域住民を対象にした認知症理解の講座や毎年地域住民を招待して交流会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の正しい理解」を目的に、地域の方々向けに、勉強会を実施。今年度は、ホームが所在している自治会の住民へ認知症キャラバンメイトサポーター養成講座を開講した。その他、介護職員が、地域で認知症ケアを展開することが支援方法の手本となるものと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。ご家族代表、地域推進委員からの意見が活発にいただき、ホームの改善に向けている。最近では、地域の困っている話題もあがり、ホームが地域に対して、どのようなことができるのか…検討がなされることもある。	会議は利用者、行政職員等が委員として毎回参加し、年間6回定期的に開催され、会議では地域の独居高齢者や要援護者の相談等の意見交換や災害時の受け入れ等が検討されており、ヒヤリハットや外部評価結果の報告が行われ助言等を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、確実に参加して下さっている。自然災害時の連絡相談もできるようになった。また、ホームが主催する地域交流会への参加や防災訓練への参加もある。常に、町担当者と連携、メール等も活用し情報交換することを努めている。	行政担当者が年度当初に運営推進会議で介護保険制度の見直しについての説明を行った。また、事業所の敬老会等の行事への参加、川の氾濫による危険等、災害時の連携が確認された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、地域密着型サービス事業所合同の勉強会を開催している。「身体拘束・高齢者虐待」についても開催し、理解を深め共有している。行動の抑制や言葉の抑制もしないよう常に、意識している。	職員は法人内の身体拘束等の研修会に参加している。日頃から定例会議で話し合う機会があり、職員間で言葉による抑制についても意識し注意し合っている。家族へは利用開始時にリスクについて説明し、必要時には再度説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、地域密着型サービス事業所で勉強会を開催し、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では、現在、対象者はいない。法人内、地域密着型サービス合同で勉強会を開催している。学びの場を設け、共に共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、又は、必要に応じ家族会を開催し、話し合い、説明、理解を頂いている。今回の法改正についても説明、同意を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ご家族宛にお便りを送付している。入居者様の1ヶ月の様子を文書で報告する様にしている。また、ご家族から家族会において意見を頂いたり、文書で頂いたりする。ご家族の意見は、回覧や会議を行い、改善に向けている。	家族からは運営推進会議や家族会、行事の際に意見を聞く機会があり、「認知症理解の勉強会を開催してほしい」「台風時夜間が不安」との意見があり、台風時の夜間は男性2人体制で行う等、運営に反映されている。利用者の要望は直接聞くようにしているが、意見は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の面談を行っている。職員が働きやすい職場づくりに努めている。	管理者は毎月の定例会議や職員との面談で意見や要望を聴く機会を設け、スロープの設置やトイレ前のカーテン設置等、反映させている。今年度は数名の職員が定年退職や法人内異動があったが、お別れ会の開催やお便りで知らせ、異動時の不安軽減に配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内、就業規則に沿って行っている。職員面談については、管理者と法人課長も同席し行った。職員の職場に対しての要望等を確認し、職員の向上心に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の現場においても、教育に努めている。また、認知症関連研修や県GH連絡会主催の研修、他の研修へは、積極的に参加を促している。勉強会や研修は、雇用促進の研修生も参加。（県実施中、雇用促進プログラムを受け入れている）法人内においては、新人、キャリアアップ研修など、勤続年数で人材育成研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH連絡会へ加入し研修等参加・法人内地域密着型サービスの合同勉強会でネットワークづくりの場を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、事前訪問を何度か行い、ホームへの入居について本人の意向を確認したり、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を取り入れ努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向にあった必要なサービスや関係機関などとの相談、紹介を行っている。また、ご本人のこれまでの生活、関係性を維持できるようインフォーマル資源も活用している。（例えば…美容室現在は居ませんが模合 など）		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話の中でも、「地域の年間行事」について“なり染め”などを聞き出したり、日常活動では、食事や簡単な家事動作等は、一緒に行えるよう支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の屋外活動は、ご家族へ参加呼びかけを行っている。最近は参加が増えてきた。また、日常の買い物や外出、病院受診など入居者とご家族が関われる時間を設けている。大掃除や夏の交流会など家族も準備等参加する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の一人ひとりが、大切に思っていることを把握する様、努めている。また、馴染みのものと途切れないよう、畑や美容室、自宅訪問支援も行っている。	馴染みの美容室利用や自宅を訪問しながら畑を見に出掛ける支援を行っている。また、利用者の希望で盆、正月には職員も同行し親戚周りを行う等している。馴染みの関係性の把握は、地域の行事に参加した際に民生委員や知人から情報を得ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者、一人ひとりの性格や特徴、また、その日、その時の精神状態を把握し、入居者同士が交流できるよう環境を整えている。常に、声掛け等をして交わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでに、退居となった方々は、面会やご家族との連絡を行っていた。現在は他界された為ご本人に会う事がない。ご家族との繋がりは保たれ、時折、ホームを尋ねて来られる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの小さいことから、本人の思いを通して。食事や入浴もご本人と相談し、希望通りにできるよう努めている。	利用者の思いは日々の関わりの中で聞き、民謡より唱歌を好む等の個別の意向を確認するようにしている。把握困難な方からは利用者間の会話の中や独語を繰り返す時の表情等を見て把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや家族からの聞き取りを行いながら、馴染みの関係が途切れないようにしている。また、情報は、職員が共有出来るようカンファレンス等で話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状況は、申し送りや記録のなかで情報の共有を行っている。一人ひとりが出来る事を役割としてやっていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間、毎月1回、カンファレンスを行い、情報の共有を行っている。ご家族と職員、情報の共有ができるよう、面会時、お便りにて連絡をとり、いつでも相談のできる体制を取っている。必要があれば、ケアプランへ反映している。	毎月の定例会議の中で職員から情報を得ている。3か月ごとにモニタリングと評価を行ない、介護計画は1年ごとの定期と、随時の見直しが行われ、利用者や家族の意見が反映されている。また、職員は介護計画を意識し統一したケアを行い、日々の記録に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、出来るだけ入居者の1日の様子が分かるよう細かく記載している。勤務者は、記録物を確認した上で1日の支援に取り組むことにしている。日々の情報・記録は、カンファレンス、モニタリング等に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	捉えられない支援に努めている。常に、入居者のニーズ・ご本人の思いに対応できるように努めている。ご家族支援も介護職員が行う一つの支援と考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のいいあんべ事業を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援方法は、これまでと変わりなく、支援を継続している。本人・家族が希望するかかりつけ病院・医師となっている。医師と連携を取り、健康管理を行っている。	利用者は各々のかかりつけ医を受診し、管理者も家族と同行して直接情報を共有する方針をとっている。必要に応じ情報提供書等を提供する事もある。年2回全員が歯科医によるボランティアで無料の歯科検診受け、口腔ケアに重きを置いた支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問となっている。24時間・265日の緊急対応を行っている。また、入居者の屋外活動、ホーム内行事へ参加をして頂き、入居者の生活状況把握やご家族との信頼関係づくりを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホーム内生活情報提供書を作成し病院側へ提供している。入院中は、職員が出来るだけ面会にいき、情報提供、する事を心がけている。入退院時には、カンファレンスなど活用し訪問看護師も参加し、情報を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、勉強会を行い、職員の意識を高めている。ホーム内で出来る範囲の終末期ケアについて、検討を進めている。同時に、希望されているご家族と共に、担当医を含めどのように進めるか…話し合いを持っている。	重度化、終末期の指針は作成されている。利用者家族から事業所内での看取り対応の希望があり、介護計画には意向を反映しているが、実施にあたっては、現在職員の研修や訪問診療等の体制づくりに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に1回、消防署による救急救命法研修を受講している。法人内地域密着型サービス合同の勉強会においても消防署による研修を入れ、技術を修得できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練・勉強会・マニュアル確認に努めている。また、地域住民と共に訓練を行えるよう検討している。	消防署の指導の下、夜間を含め年2回の避難、初期消火訓練を実施しており、緊急時一斉通報設備等は完備している。事業所前の川の氾濫が今年2回あり、避難した経緯がある。自然災害を含めたマニュアルの見直しが行われているが、職員への周知が不十分である。	火災や自然災害に対応した避難訓練を地域住民の参加協力による実施、および、職員間でのマニュアルの共有が望まれる。また、敷地内への出入り口が1か所のため、非常出口の検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識し行っている。排泄や入浴介助については、極力同性で介助を行うようにしている。言葉かけは、常に注意を払っている。勉強会も繰り返し行っている。	利用者の尊厳について、年1回法人で合同研修を実施し、毎月の定例会において利用者の尊重について確認している。また、日頃のケアは自主性を重んじ、無理強いしないケアに努めている。居室に入る時の声かけの徹底やボランティアの言動等にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面において、自己決定ができるよう働きかけている。本人が決めたことは、叶えられるよう支援する。毎月の屋外活動目的として、本人の自己決定を意識し実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へ日課はお知らせするが、一人ひとりのその日の気分に合わせてその時のペースで柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着や外出着など、本人と選択するようにしている。理美容については、ご家族と馴染みの理美容室に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、準備、片付けまで極力、入居者と一緒に行く。キッチンが、対面式のオープンキッチンになっており、視覚、聴覚、嗅覚で楽しむことができる献立もその日に決め、旬な食材を楽しめるようにしている。食事については、入居者、職員共に楽しんでいる。	献立は当日利用者の意向を聞き旬の食材を取り入れ、職員が調理している。利用者は食卓拭き等に参加している。カウンター横には旬の野菜類が置かれ、五感を楽しませる工夫がされている。職員も会話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1回～2回程度、法人内、管理栄養士とその他の職員がチームになり、抜け打ち調査がある。献立の内容、提供している量、カロリー、味など確認し評価する。献立は、ホーム内へ掲示している。食事、水分摂取量はカルテへ記載している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。必要に応じて、歯科医や衛生士から指導を受け、ケアしている。半年に1回、入居者全員、歯科の無料検診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりにあった排泄介助を行っている。皮膚状態にも配慮し、入居者全員が綿パンツ、必要な方は尿取りパットを利用している。尿取りパットについても個々の排尿パターン、尿量によってあったものを使用している。トイレでの排泄をする事で、自信に繋げている。	5名の利用者が介助を要しており、全員日中はトイレでの排泄を介護計画に組み入れ、自立に向け支援している。同性介助を旨としているが、職員の勤務上やむを得ない場合は、本人に説明した上で介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合った方法で、様々な食事や水分等で工夫している。主治医との相談も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に入浴して頂いている。日々の入居者の気分により1日のなかで、いつでも対応するようにしている。毎日出浴希望される方もいれば、週3回ほどの入浴の方もいる。無理強いすることなく柔軟に対応している。	入浴回数や時間は利用者の意向を取り入れ、同性介助で柔軟に行われている。入浴を嫌がる利用者は、職員を替えたり、順番表に本人希望の順位を記入し、順番が来たことを認識してもらい、自ら入浴する方法等の工夫をしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの1日の流れで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服状況が把握できるよう、内服効能表をファイリングしている。今年にはいり、誤薬があり、内服管理方法の再確認をしている。今後も慎重に取り扱っていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれが、自分の役割や嗜好を持っている。それぞれの思いを尊重し、役割が継続でき、生き甲斐を持って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、買い物や散歩に出かけている。本人の要望があれば、自宅への訪問など抑制することなく対応している。また、旧盆やお正月など年中行事や家族間の行事など、ご家族だけで対応が困難な方は、職員が付き添い行事に参加して頂いただけよう支援している。	近所の八百屋に日々の食材購入や散歩等に出かけている。毎月全員で大型店舗、名所、外食、季節の花見等を家族も参加し実施している。綱引き等の地域行事への参加、また、個別介護計画により、自宅や耕作していた畑を見に行く等の外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてお小遣いを預かり、必要な日用品は、ご本人で購入する事もある。居室にて大切に、自己管理されている方もおられる。職員は、残金等を確認、見守りを行っている。お小遣い帳は、年度末にご家族へ精算する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行っている。本人宛に電話や手紙が届く事も多くある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーに面してトイレの出入り口が設置、出入りをする姿がフロアーから一目できる。プライバシー確保が必要とのステップアップが、改善した。日頃、気がつかなかった点だった。その他、音、光などの入居者が安心、快適に過ごせるよう工夫している。	フロアを囲むように居室が配置されており、天井が高く、天窓からは日が差し空間の広さが伺える。庭向けにテラスがあり、庭の野菜や草花を見ながら涼んだり食事を摂ることもあり、季節感や生活感、日々の天候を感じる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、気の合った者同士過ごしている。また、思い思いの場所で、過ごしている様子がある。共用スペースは、工夫次第で、その都度の対応ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、落ち着けるよう工夫をしている。居室内家具類については、本人の使い慣れた物やご家族がご本人に使って欲しい物を持ち込んで頂いている。ご本人らしさを居室にも求め、工夫している。	各居室は、ベッドや寝具を含め全て利用者が自宅で使い慣れた道具や好みの私物を使用している。利用者各々に合った異なる雰囲気を出し、居心地よく過ごせる工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境については、職員やご家族とも相談し、入居者自身にあった環境作りを工夫している。		